

平成22年2月分

## 経営方針書が会社を変える。

1月15日に経営計画発表会を行ないました。社員とお客様の総合計670名の参加者です。過去最高に盛り上がり感動しました。社員がこの一年間で大きく成長したのが実感できました。経常利益目標2億円に対して、2億1百50万と又々に利益目標も達成しました。基調講演はイエローハットの鍵山秀三郎相談役をお願いしました。鍵山相談役のお話の中で私が一番勉強になったのは異常と正常の話です。掃除をする前とした後ではどっちが正常なのかという話です。世の中では本来異常なものが正常のように思われていることが多いのではないのでしょうか。掃除をする時に自分の会社の中だけをするのかそれとも会社の外までできるだけ広い範囲を掃除するのか、古田土会計ではパートも含めて全社員に経理を毎日公開しています。社員は数字を読み取るので自分達が一生懸命働いた結果を早く知りたかと思ってるのではないかと考えているかです。働く意味も自分のためだけに働くのではなく、お客様に喜ばれるため、人様のお役に立つ人になるために働くのだと繰り返し話をしています。私達がやっていることは異常ではなく、私達が正常なのだと確信しました。未来を担う子供達のためにも大人が正しい姿を見せていくことが大事ではないのでしょうか。

年の経営計画の重点は経営方針書を一社でも多くの中小企業に作ってもらおうという思いをします。会社は経営方針書により社長が変わり、社員が変わり、会社が変わると確信しているかです。数値のみの経営計画では「仏作て云鬼入れず」です。経営計画は経営方針書があってこそ生き物となります。多くの会社は数値のみの経営計画しか作りません。数値のみでは社員は何のために目標売上目標利益を達成しなければならぬのかわかりません。社長の個人財産を増やすために我々はきつりノルマに挑戦するのではないかと思う社員もいると思います。数値目標を達成しなければならぬ理由も経営方針書に書かなければなりません。社員の協力も得られない経営計画は絵に書いた餅です役に立ちません。経営者は経営方針書で、社員との価値感を共有する経営理念を掲げ、お客様に社員が誇りを持って言える経営ビジョンを作ります。経営方針書には、長期事業構想で会社の進むべき未来像を書きます。社長の夢、会社のなりたい未来を文書と数字で表現します。この時に大切なことは、社長は会社の夢ばかりではなく、未来の社員の処遇をも書くことです。社員に希望の持てる未来を書き、語ることです。社長が自分の夢だけを語っていたのでは、社員は社長は自分達のことを何も考えていないと思ってしまう経営方針の実行に協力してくれないかです。経営方針書には環境整備をはじめ、リーダーのあるべき姿が書かれます。この方針を一番熱心に実行するのは社長でなければなりません。社長が実践することにより社長が変わります。次に役員、リーダーが変わり、やがて社員も変わり、会社自体が生き生きとした会社になります。古田土会計は私達社員が本元となり、教える会計事務所ではなく、見せる会計事務所として、日本中の中小企業を元気にします。同業者で経営方針書を指導、実践しているところはほとんどないのでオンリーワンを目指していきます。

古田土 満